

**授業概要**

書・文字の変遷を辿りながら、実技・鑑賞等を通して、美的・規範的とされるいくつかの作品、及びそれに関連する歴史的・文化的事項について講義を行う。それらを基盤とし、毛筆・硬筆による書写力の向上を図るとともに各自の内的表現に結び付けるための指導も行う。

**授業計画**

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス                  |
| 第 2 回 | 硬筆① 書簡                 |
| 第 3 回 | 硬筆② 熨斗袋の表書き            |
| 第 4 回 | 楷書① 楷書の基礎              |
| 第 5 回 | 楷書② 九成宮醴泉銘             |
| 第 6 回 | 行書① 行書の基礎              |
| 第 7 回 | 行書② 蘭亭序・小テスト（持ち込み不可）   |
| 第 8 回 | 俳句① 江戸時代の俳句            |
| 第 9 回 | 俳句② 自作俳句(1)            |
| 第10回  | 俳句③ 自作俳句(2)            |
| 第11回  | 書体の変遷                  |
| 第12回  | 篆書                     |
| 第13回  | 隸書                     |
| 第14回  | 仮名① いろは歌               |
| 第15回  | 仮名② 高野切                |
| 第16回  | 筆記試験（教科書・参考書等、全て持ち込み可） |

**到達目標**

- ①授業中、取り上げる「規範」的要素について理解を深めるとともに、書写力の向上を図る。
- ②書体の変遷について概要を理解し、毛筆により授業中、取り上げた書体に関する指定の課題を表現し得る。
- ③名筆に対する審美眼を養い、その魅力を感じ、書を通して各自の表現を試みる。

**履修上の注意**

- ・初回の授業中、ガイダンス（授業の進め方・内容、各自持参すべきもの、成績評価基準の詳細、書道用具・用材の選び方や扱い方等についての説明）を行う。
- ・履修希望者は必ず初回から出席するように。受講者数の上限を 30 名とする。それを超える場合、初回の出席者の中から抽選（2 回目以降の出席者は原則、受講不可）。
- ・書道道具（の全て）を各自用意のこと。

**予習・復習**

硬筆使用による課題（いわゆる実用書等）。

**評価方法**

「提出作品」（実技成果） 50%  
筆記試験 30%  
授業内提出物 10%  
受講状況（授業への取り組み方） 10%

**テキスト**

- \*教科書は使用しない。
- \*参考書等については授業中、適宜指示する。